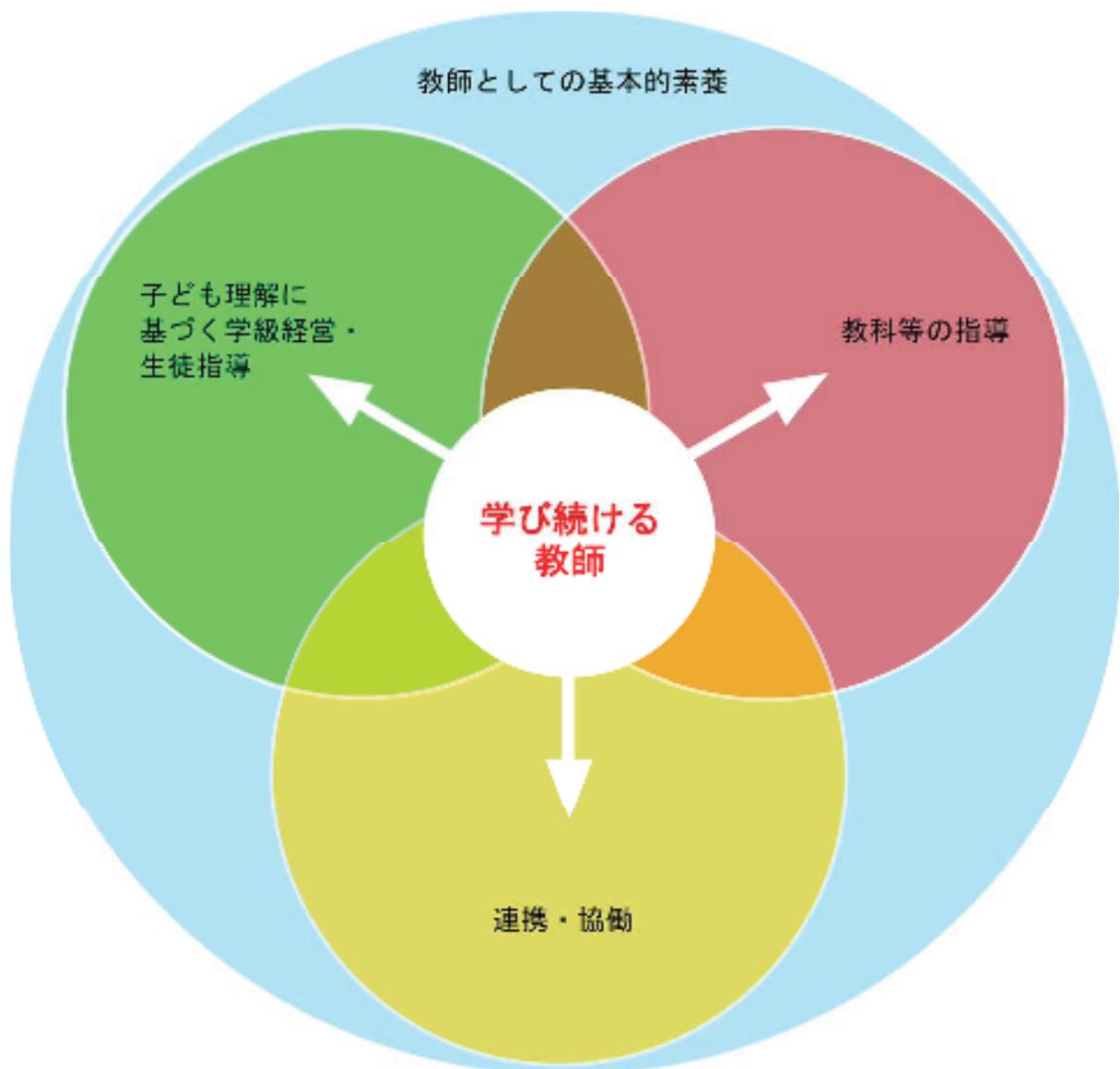


2. 教員養成スタンダード（小学校版）

本学の教員養成スタンダード（小学校版）は5領域、15の中項目、50項目から構成されており、次のように構造化されています。

教師になるためには、「教師としての基本的素養」を基盤として、「子ども理解に基づく学級経営・生徒指導」、「教科等の指導」、同僚や保護者などとの「連携・協働」という相互に関連し合う3領域の資質能力をバランスよく身につける必要があります。そうした資質能力は大学4年間を通して、また教職に就いてからも、絶えず向上させることが求められます。そのためには生涯にわたって「学び続ける教師」となることが大切です。



兵庫教育大学 教員養成スタンダード(小学校版)の概念図

教員養成スタンダードは大学卒業までに各自が身につけておくべき「教員として最小限必要な資質能力」を示したものです。在学中に自らの資質能力の発達を確認し、自己評価を行うためには、「自己評価のための具体例」を用います。

▼「自己評価のための具体例」とは

教員養成スタンダードに示される各資質能力について、在学中に皆さんが自己評価を行う際、評価の目安となる具体的な事例を示したものです。

これらの具体例はあくまでも例示であり、絶対的なものではありません。そのため、皆さん自身でも各スタンダード項目を参考に具体的な事例を考えてみるのが重要です。

教員養成スタンダード				自己評価のための具体例
学び続ける 教師	省察的実践	1	常に自らの学びを省察し、課題を見つけて改善することができる	<ul style="list-style-type: none"> ・自らの学びを振り返り、知識や理解の不十分な点に気づくことができる ・自らの教育実践を振り返り、実習ノートやポートフォリオで成果や課題を整理することができる ・大学の授業を通して自己の教師像を絶えず捉え直すことができる など
	研究を通じた専門性向上	2	研究活動を通じて絶えず自らの専門性の向上を図ることができる	<ul style="list-style-type: none"> ・知識や理解を深めるため、授業の予習や復習を積極的に行っている ・自己の研究テーマを持ってゼミに主体的に参加している ・研究に必要な情報・資料を収集し、活用することができる など
	長期的視野に立つ職能成長	3	長期的視野に立って、自らの職能成長を図ることができる	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の授業科目等が大学での4年間の学びや将来の教師の仕事にどのように役立つかを意識して自らの成長を図ることができる ・自己の理想的な教師像を具体的に述べるができる ・教員養成スタンダード等を手がかりに、教師の生涯にわたる成長という視点から、自己の現状と課題を述べる など
教師としての 基本的 素養	社会人としての素養	4	言葉づかい、挨拶、礼儀、マナーなどの社会人としての常識を身につけている	<ul style="list-style-type: none"> ・場面や状況に合った服装や言葉づかいができる ・日頃から社会生活上の基本的なルールを守っている ・明朗かつ積極的に物事に取り組んでいくことができる ・配慮を必要とする人に適切に対応しようとする姿勢を持っている など
		5	集団での活動において、リーダーシップを発揮することができる	<ul style="list-style-type: none"> ・集団活動において自らの役割を見出し、積極的に活動に参加することができる ・集団内の多様な意見に耳を傾け、集団をまとめることができる など

教員養成スタンダード			自己評価のための具体例
教師としての基本的素養	社会人としての素養	6	<p>自らのストレスと身体の健康を適切に自己管理することができる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師のストレスをめぐる問題(「バーンアウト」等)とその要因・対処法について知っている ・ストレスを発散するための自分なりの方法を身につけている ・困難な事態に対しても問題解決に向けて粘り強く取り組むことができる ・自身の健康を考えて日常的に適度な運動を行っているなど
		7	<p>日本及び外国の文化・歴史、環境問題、平和問題等についての幅広い知識を持っている</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本及び外国の文化・歴史に興味を持ち、書物を読んだり、旅行をしたりしている ・環境問題や平和問題に関心を持ち、それらについて調べたり、友人等と話し合ったりしているなど
	教師としての素養	8	<p>教師としての使命感を持ち、その役割と職務内容を理解している</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師としての使命感を持って教育実習や学校支援ボランティアに臨んでいる ・教師の服務事項(職務上・身分上の義務)について知っているなど
		9	<p>教育に関する社会的・制度的事項を理解し、現代の学校教育の課題を把握することができる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育基本法と教育三法(「学校教育法」、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」、「教育職員免許法及び教育公務員特例法」)の主な内容を知っている ・近年の中央教育審議会の主な答申等の内容を知っている ・全国学力・学習状況調査の最新の結果を知っているなど
		10	<p>教育の理念・歴史・思想について理解し、自らの教育観を深めることができる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育の理念・歴史・思想について調べたり、それらに関する書物を読んだりしている ・教育の理念・歴史・思想に関する知識に基づき、現代の教育課題について自分なりの意見を持っているなど
		11	<p>教育課程の意義や編成の方法について基本的事項を理解している</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領や学習指導要領解説(総則編)の主な内容を知っている ・子どもの実態や地域の特性を生かしたカリキュラム開発の具体例を挙げることができるなど
		12	<p>子どもに対して正しくわかりやすい言葉づかいができる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの模範となるような言葉づかいができる ・子どもが理解しやすい言葉づかいができるなど
		13	<p>学校生活の様々な場面で子どもの興味・関心・意欲を喚起するための工夫を行うことができる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業において教材の内容や提示の仕方を工夫することができる ・子どもの興味・関心・意欲を高めるような褒め方ができるなど
		14	<p>人権を尊重しながら子どもにかかわることができる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの人格を傷つけるような言動を行わない ・子どもの多様な考え方や文化を尊重できる ・いかなる場合においても体罰を行わないなど

教員養成スタンダード		自己評価のための具体例	
教師としての基本的素養	教師としての素養	15	<p>子どもの安全管理に関する基礎的知識を有し、指導に活かすことができる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文部科学省や教育委員会の発行する安全管理・指導に関する通知やマニュアルを読んでいる ・屋内外で子どもが安全に活動できるよう事前に予防策を講じることができる など
		16	<p>素直に他の教師に相談するとともに、他の教師の意見に対して謙虚に耳を傾けることができる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・積極的に実習指導教員や他の実習生に相談・質問することができる ・実習指導教員等の指導や助言を素直に受け入れることができる など
		17	<p>主な情報通信機器の利用方法を理解し、教育活動に活かすことができる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワープロ、表計算、プレゼンテーションソフトなど、基本的なアプリケーションソフトを活用することができる ・様々なデジタルコンテンツを用いた教材研究が行え、授業でのICT活用のイメージを持っている ・著作権、肖像権、ウイルス対策など、基本的な情報モラルに関する知識と対策方法を知っている など
		18	<p>自らが学校組織の一員であることを理解し、組織内での自らの役割を自覚している</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校の主な校務分掌の内容について知っている ・各学校の教育目標や重点課題の重要性とその機能を知っている など
子ども理解に基づく学級経営・生徒指導	子ども理解	19	<p>子どもの発達に関する基礎的知識を有し、子ども一人ひとりの理解に活かすことができる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの発達に関するピアジェやヴィゴツキー等の代表的な理論を知っている ・発達の個人差に配慮し、子どもを理解することができる など
		20	<p>子ども一人ひとりの特性や心身の状況を生活環境や生育歴を含めて多面的にとらえることができる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもをより良く理解するため、子どもの生活環境について実習指導教員と話している ・子ども一人ひとりの生育歴を、指導要録や保護者面談等により把握することの重要性を知っている など
		21	<p>子ども同士の関係や仲間集団を把握し、指導に活かすことができる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・休み時間や放課後の様子から子ども同士の様々な関係性を把握することができる ・学級内で生じたトラブルの原因を考える際に、子ども同士の関係性を考慮することができる など
		22	<p>公平かつ受容的・共感的な態度をもって子どもとかわることができる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもに分け隔てなく公平に接することができる ・子どもの言葉をじっくりと聴き、共感的に理解することができる など
		23	<p>特別支援教育に関する基礎的知識を有し、子どもの指導や支援に活かすことができる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育の意義や理念について知っている ・身体障害、知的障害や発達障害(LD、ADHD、自閉症スペクトラム)などの特性について知っている ・障害のある子どもに対する基本的な学習支援方法を知っている ・子ども達の生活場面に即して、障害理解のための指導を行うことができる など

教員養成スタンダード			自己評価のための具体例	
子ども理解に基づく学級経営・生徒指導	学級経営	24	学級担任の役割と職務内容に関する基礎的知識を持っている	<ul style="list-style-type: none"> ・クラスで学級目標を立てることの意義について知っている ・学級担任の一日の仕事の流れを把握している ・子どもに対する給食指導や清掃指導を行うことができるなど
		25	学級経営案の意義を理解し、作成することができる	<ul style="list-style-type: none"> ・学級経営案を立てることの重要性とその役割について知っている ・学級経営案の作成にあたり、各学校の教育目標や重点課題、児童の実態を踏まえることの必要性を知っているなど
		26	子どもとの信頼関係の重要性を認識し、その構築に努めることができる	<ul style="list-style-type: none"> ・教育において子どもからの信頼を得ることの意義を知っている ・子どもの名前を早く覚えたり、子どもとの約束を守ったりするなど、子どもとの信頼関係を築くための具体的な取り組みを行っているなど
		27	教室掲示や座席配置を工夫するなど、子どもが生活や学習をしやすいよう教室環境を整えることができる	<ul style="list-style-type: none"> ・教室内のそれぞれの掲示物にどのような教育的意図があるかを知っている ・班学習等の学習場面に応じて座席配置を工夫することができるなど
	生徒指導	28	子どもの基本的な生活習慣の重要性を理解し、指導を行うことができる	<ul style="list-style-type: none"> ・整理整頓について指導することができる ・時間を守り規則正しい生活を送ることについて指導することができるなど
		29	学校の規則や子どもが自分たちで作った決まりを守ることの大切さについて指導することができる	<ul style="list-style-type: none"> ・学級活動での話し合い活動において、子どもが自分たちで決まりを作れるよう指導することができる ・集団活動における約束や決まりを守ることの重要性を子どもに説明できるなど
		30	子どもの問題行動の背景を多面的にとらえ、対応方法を考えることができる	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの暴力行為の要因を様々な観点から考えることができる ・学級で生じたいじめへの具体的な対応方法を知っているなど
		31	教育相談の意義、理論や技法に関する基礎的知識を持っている	<ul style="list-style-type: none"> ・予防的な教育相談や問題解決的な教育相談の特徴を説明できる ・傾聴、受容、明確化等の教育相談で用いられる基本的な姿勢を身につけているなど
		32	キャリア教育の意義を理解し、その指導に必要な理論や方法に関する基礎的知識を持っている	<ul style="list-style-type: none"> ・学校におけるキャリア教育の必要性を説明できる ・小学校段階でのキャリア教育の具体的な場面を挙げることができるなど
		33	学習内容の系統性や各学年間のつながり等を含め、学習指導要領の主な内容を理解している	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科等における各学年の目標と内容を知っている ・「学校の教育活動の全体で行う道徳教育の目標」及び「道徳の時間に行う道徳教育の目標と内容」を知っている ・特別活動における各領域の目標と内容を知っているなど
教科等の指導	内容理解	33	学習内容の系統性や各学年間のつながり等を含め、学習指導要領の主な内容を理解している	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科等における各学年の目標と内容を知っている ・「学校の教育活動の全体で行う道徳教育の目標」及び「道徳の時間に行う道徳教育の目標と内容」を知っている ・特別活動における各領域の目標と内容を知っているなど

教員養成スタンダード			自己評価のための具体例	
教科等の指導	内容理解	34	教科等の内容に関する専門的知識を有し、実際の指導に活かすことができる	<ul style="list-style-type: none"> ・全ての教科等の内容について学習指導要領に沿って指導するに十分な知識を持っている ・得意な教科等を持ち、特定の分野についての深い知識を持っている ・専門的知識を活かして学習指導案を作成することができる など
		35	教材の内容について分析・解釈し、適切な教材の準備を行うことができる	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領において求められる学習内容とのつながりを意識し、教科書の内容を捉えることができる ・各授業の目標を踏まえ、それに適した教材を選択することができる など
		36	子どもの実態や地域の特色に合わせて教材・教具に工夫を加えたり、新たな教材・教具を開発したりすることができる	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の特性を生かした教材開発の具体例を挙げることができる ・子どもの実態に合わせて既存の教材・教具を自分なりにアレンジすることができる など
	授業方法・指導技術	37	主な学習指導方法の長所と短所を理解したうえで、学習の場面に応じて適切な指導方法を選択することができる	<ul style="list-style-type: none"> ・一斉指導・グループ別指導・個別指導の長所と短所について知っている ・グループ別指導を活かすことのできる授業場面を挙げることができる など
		38	各教科等の内容に即した指導方法について理解し、活用することができる	<ul style="list-style-type: none"> ・体験活動を取り入れた授業の具体例を挙げることができる ・実技の習得を目指した授業における指導上の留意点を知っている ・観察・実験を用いた授業における指導上の留意点を知っている など
		39	板書、発問、指示の仕方など授業を行ううえでの基本的な指導技術を身につけている	<ul style="list-style-type: none"> ・正しい書き順で丁寧に板書をすることができる ・子どもの主体的な学習を促すために発問を工夫することができる など
		40	学習内容の習熟の程度などを踏まえて、個に応じた指導を試みることができる	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども一人ひとりの得意分野を見つけ、それを伸ばすような指導をすることができる ・机間指導等を通じて子どもの習熟度に合わせた個別指導を行うことができる など
		41	子どもの多様な思考を生かしながら、子どもの協同的な学習を促すことができる	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの多様な反応を想定して、協同的な学習を促す学習指導案を作成することができる ・授業において話し合い活動を効果的に取り入れることができる など
	42	授業中の子どもの学習状況や発言に配慮し、柔軟な授業展開を試みることができる	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの疑問やつまづきを活かして授業を展開することができる ・授業において子どもの予期せぬ反応を大切に、臨機応変に活かすことができる など 	

教員養成スタンダード			自己評価のための具体例
教科等の指導	授業計画	43	<p>各教科等の年間指導計画の内容を理解し、自己の単元計画や本時案に反映させることができる</p> <p>・前後の学年で扱う内容とのつながりを意識するとともに、各教科の年間指導計画の内容を把握している</p> <p>・年間指導計画を確認した上で、単元計画・本時案を立てることができる</p> <p>など</p>
		44	<p>単元計画と子どもの実態を踏まえ、学習指導案を作成することができる</p> <p>・学習指導案を作成する際に子どもの習熟の程度を把握している</p> <p>・単元の目標や計画を明確にしたうえで、学習指導案を作成することができる</p> <p>など</p>
	授業研究	45	<p>授業研究の重要性を理解するとともに、積極的に取り組むことができる</p> <p>・日常的に自らの授業を振り返るとともに、子どもの反応にも耳を傾け、さらなる改善につなげることができる</p> <p>・授業後の反省・検討会において意見を出したり、他者の意見を受け入れたりして、授業改善に活かすことができる</p> <p>など</p>
	学習評価	46	<p>子どもの学習に対する主な評価の方法を理解し、学習指導に活かすことができる</p> <p>・目標準拠評価と集団準拠評価の違いについて知っている</p> <p>・形成的評価など、指導と評価の一体化のための方法について知っている</p> <p>など</p>
連携・協働	他の教師との連携・協働	47	<p>子どもに関わる情報を他の教師と共有する姿勢を持っている</p> <p>・教員間で子どもの情報を共有すること(報告・連絡・相談)の必要性を説明できる</p> <p>・クラスの子どもの習熟度などについて実習指導教員と話している</p> <p>など</p>
		48	<p>様々な場面で他の教師と協働する姿勢を持っている</p> <p>・学習指導場面において積極的に実習指導教員の補助ができる</p> <p>・実習校や各活動学校園の教師と協力して学級活動や学校行事に取り組むことができる</p> <p>など</p>
	保護者・地域等との連携・協働	49	<p>学校と保護者・地域・他の専門家・他校種との連携の重要性や役割分担について理解している</p> <p>・保護者・地域との連携が必要な場面の具体例を知っている</p> <p>・特別支援教育コーディネーターや児童相談所の専門家との連携が必要な場面の具体例を知っている</p> <p>・小学校と幼稚園や中学校との連携に関する知識を持っている</p> <p>など</p>
		50	<p>保護者や地域の声に耳を傾け、誠実に対応する姿勢を持っている</p> <p>・学校に対する保護者・地域の要望の背後にはどのような期待があるのか考えることの重要性を知っている</p> <p>・保護者との会話の重要性や保護者と積極的にかかわることの意義を知っている</p> <p>・学校と保護者・地域の立場や視点の違いを尊重することの必要性を説明できる</p> <p>など</p>